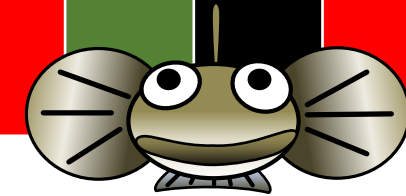


第5回



江戸前勉強会2022

• はじめに

「第4回の振り返りと、参加の皆様について」

(古川恵太)

2023年1月6日 19:00 - 20:30

まもなく始まります。

• 話題提供

東京湾の環境評価 (岡田知也さん 指標活用PT長)

コメンテーター (野村英明さん 東大大気海洋研)

• 意見交換

• おわりに



Youtube
東京湾再生
ハゼ博士



Webサイト
coastcard.jp

江戸前勉強会2022



はじまりました！

共催(予定を含む):

東京湾再生官民連携フォーラム(モニタリングPT、窓PT、江戸前PT、生き物の生息場づくりPT他)

東京湾の環境をよくするために行動する会、

東京海洋大学江戸前ESD協議会、

東邦大学東京湾生態系研究センター、

ベルmontフォーラムCOAST Cardプロジェクト

協力:

東京湾再生推進会議モニタリング分科会

ご参加のみなさまへ

- Zoomでの開催に並行して、YouTubeでの公開をいたします
- 勉強会の内容を録画し、後日公開させていただきます
- ご発表、ご発言については、個人の立場でお願いします(所属機関の見解といたしません)
- 本勉強会の成果を他で引用する場合には、発表者が特定されない形としてください(チャタムハウス・ルール)
- 楽しく、未来の東京湾のために議論いたしましょう
- 発言の時以外はミュートでお願いします。

第5回



江戸前勉強会2022

- はじめに

「第4回の振り返りと、参加の皆様について」

(古川恵太)

- 話題提供

東京湾の環境評価 (岡田知也さん 指標活用PT長)

コメンテーター (野村英明さん 東大大気海洋研)

- 意見交換

- おわりに

江戸前勉強会2022 ねらい

- 東京湾再生のための行動計画（第3期）に向けた期待
- みんなが協働し東京湾再生を盛り上げていくためにはどうしたら良いのか

めざすべき東京湾の姿を描こう

ヘドロのない海を目指そう
海辺へのアクセスを確保しよう

第1回：計画
第4回：アクセス

第2回：モニタリング
第3回：生息場づくり

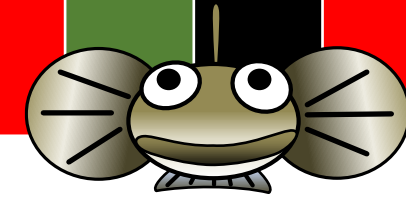
生物データの一元化・ 体系的な取得をしよう

生き物一斉調査・シンポの実施
(うなぎ調査)

第5回：環境評価
第6回：これから

新たな課題に対する対話の場をつくろう

「海のイドバタ会議」を実施しよう
継続的に話していこう



第4回江戸前勉強会2022(12/23)のふいかえり

- 東京湾へのアクセス:窓施設、窓PTの活動、東京湾の日、ベイブラン
- グループワーク:窓施設、窓PTの活動、東京湾の日、ベイブラン



Webサイト
coastcard.jp

勉強会の目標

- 目標を定め行動につなげる
 - 大きな再生目標(ビジョン)の再確認 → 行動の具体化
 - 行動する主体となる、幅広い関係者(ステークホルダー)のネットワークの強化

グループに分かれてお話ししましょう

- 第3期行動計画に向けた「これからの連携」
- 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？
 - だが、どこで、どのように
 - 地域の特性（ローカル性）
 - 日常性
 - 生物観察会
 - 東京湾の日
 - 大感謝祭

第4回の意見交換の記録

1班

第3期行動計画に向けた
「東京湾の日」をどの

連携

第1班

再生会議が、東京湾の日のウェブサイトで東京湾の保全のためのテーマを各回提示し（例えば、プラごみから東京湾を守ろうなど）、テーマに関連するポスターチラシ、教材などをダウンロードできるようにする

10月1日
（トーキョーワン）の日にみんなで一斉に！

東京湾の日に合わせて東京湾の窓施設でゴミ拾いイベントを一斉に開催する

だれが？

どこで？

自分

市民が

小櫃川
河口で

海浜公
園で

一斉モニタ
リング調査
をやる

観察会
などで

みんなを
誘ってハゼ
釣りする

小学校、中
学校を巻き
込んで

文部科学省
と教育委員
会と連携し
て

渋谷。新宿。池袋など海が見えない所でも良いかも

みんなで何かやろうと思ったらやっぱりトイレや駐車場がある公園が便利

東京湾のイ
ベントを企
画とか

潮干狩りで
親子で遊ぶ

商店街
を巻き
込んで

東京湾岸環
境保全自治
体会議も連
携して

東京湾
の窓施
設で

ビーチ
コーミ
ング

プラごみが海に与える影響を学び、ゴミ拾いまでやる

東京湾の役に立ったという実感を持てる行事をする。例えばゴミ拾い、例えばアサリなどがすくすく育つ干潟づくり。

学校や
窓施設
で

環境保全型
の潮干狩り
（ワイズ
ユース）

第4回の意見交換の記録

2班

第3期行動計画に向けた「これからの連携」
「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

第2班

だれが？	どこで？	どのように？
<p>いろいろな施設 (博物館、水族館、環境学習館など)</p>	<p>おの のの施 設</p>	<p>東京湾に関 する展示を する</p>
<p>NPOや行政 が一般の人 と</p>	<p>海浜公園や 干潟などで</p>	<p>一斉に同じこと をする(ゴミ拾 い；環境調査 ；)</p>
<p>東京湾の漁 業者さん、 行政、他の 人たち</p>	<p>東京湾のあちこ ちの現場で (zoomでもつな ぐ)</p>	<p>懇談 会</p>
		<p>佐山さん：国交省「身近な水環境の全国一斉調査」&多摩川で市民と行政で組織「多摩川流域懇談会」事務局</p>

ヒント1：地域の特性(ローカル性)や日常性に着目して
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

第4回の意見交換の記録

3班

第3期行動計画に向けた「これからの連携」
「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

第3班

だれが？

どこで？

どのように？

現場管理者
の関心は高い

東京湾
首脳会議

首都圏
サミット

行政は周りの様子を見ながら・・・積極的ではない

担当者の異動の問題・縦割り→自治体・府省を超えた東京湾を所管する一つの組織の新設。

生物観察会の恒久的・恒常的開催

ボトムアップは進んでいる。行政のトップダウン意識が乏しい

行政は生き物の重要性は理解はしているが・・・

ヒント1：地域の特性（ローカル性）や日常性に注目して

ヒント2：生物観察会などの実施も有効？

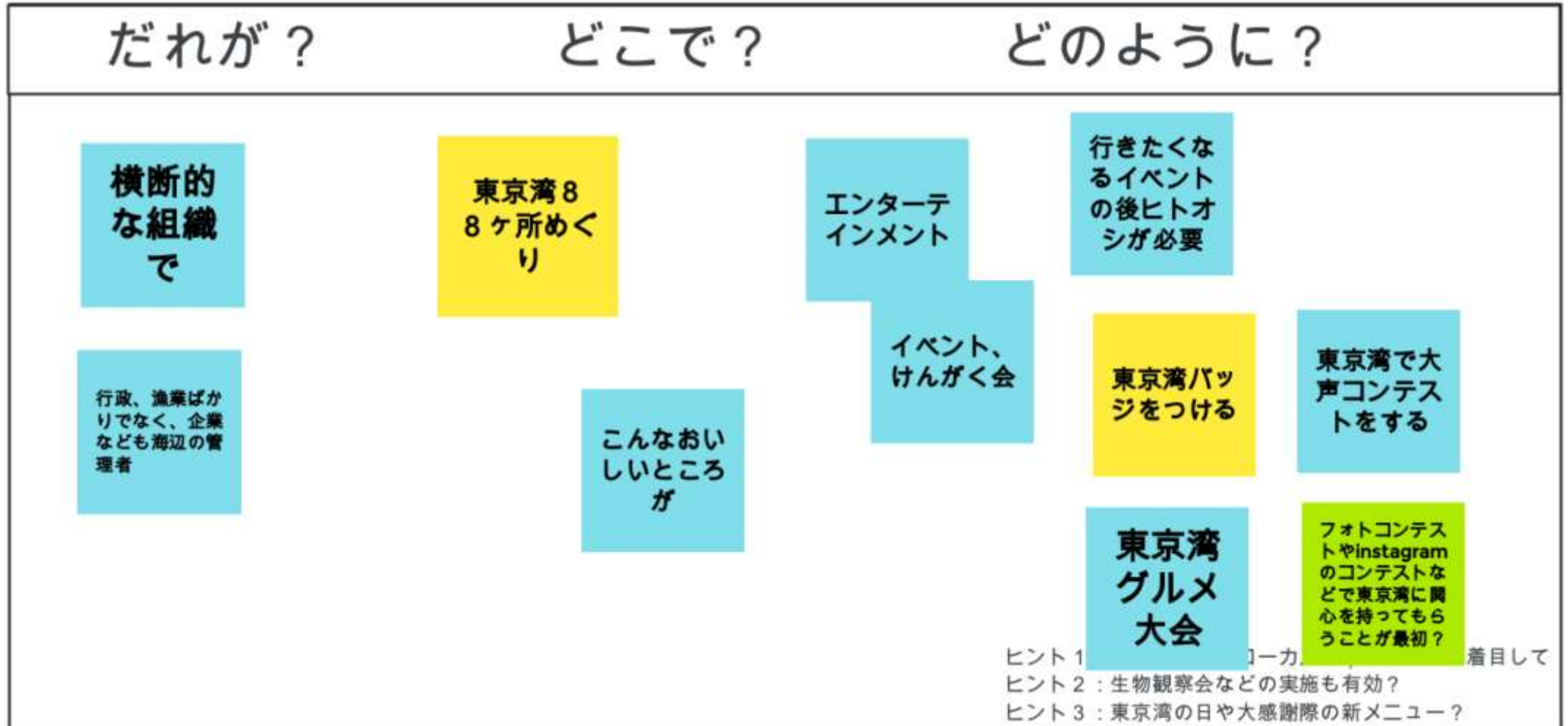
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

第4回の意見交換の記録

4班

第3期行動計画に向けた「これからの連携」
「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

第4班



江戸前勉強会2022 参加予定者

参加者について（2023.1.6現在／事前アンケート分）

ご自身と東京湾の関連性について教えてください（複数回答可）

川づくり（市民活動）
所属団体が調査（下水道展での報告）
流域住民として関心あり
関心あり

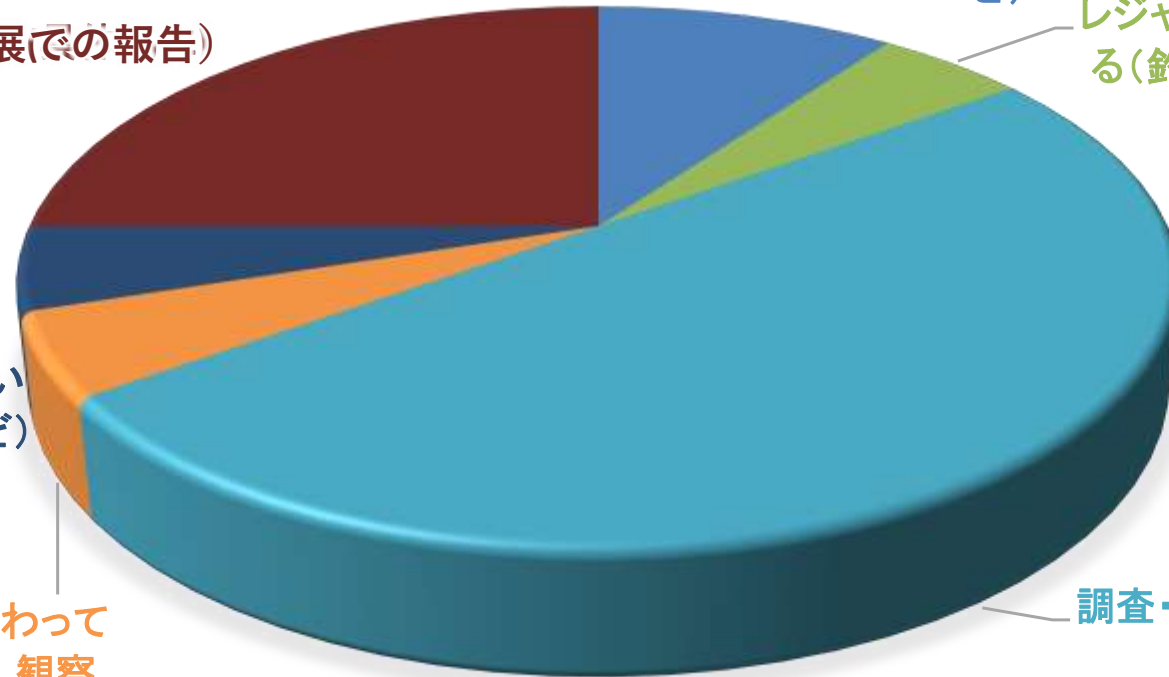
企業活動をしている（臨海部に立地する工場、会社など）

レジャー活動をしている（釣り、潮干狩りなど）

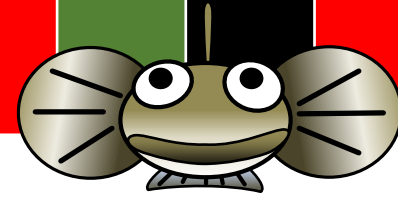
教育活動に関わっている（学校、スクールなど）

普及啓発に関わっている（水族館、観察館、学習館など）

調査・研究をしている



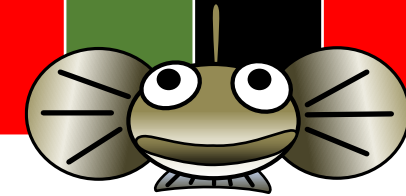
第5回



江戸前勉強会2022

- はじめに
「第4回の振り返りと、参加の皆様について」
(古川恵太)
- 話題提供
東京湾の環境評価 (岡田知也さん 指標活用PT長)
コメンテーター (野村英明さん 東大大気海洋研)
- 意見交換
- おわりに

第5回



江戸前勉強会2022

- はじめに
「第4回の振り返りと、参加の皆様について」
(古川恵太)
- 話題提供
東京湾の環境評価 (岡田知也さん 指標活用PT長)
コメンテーター (野村英明さん 東大大気海洋研)
- 意見交換
- おわりに

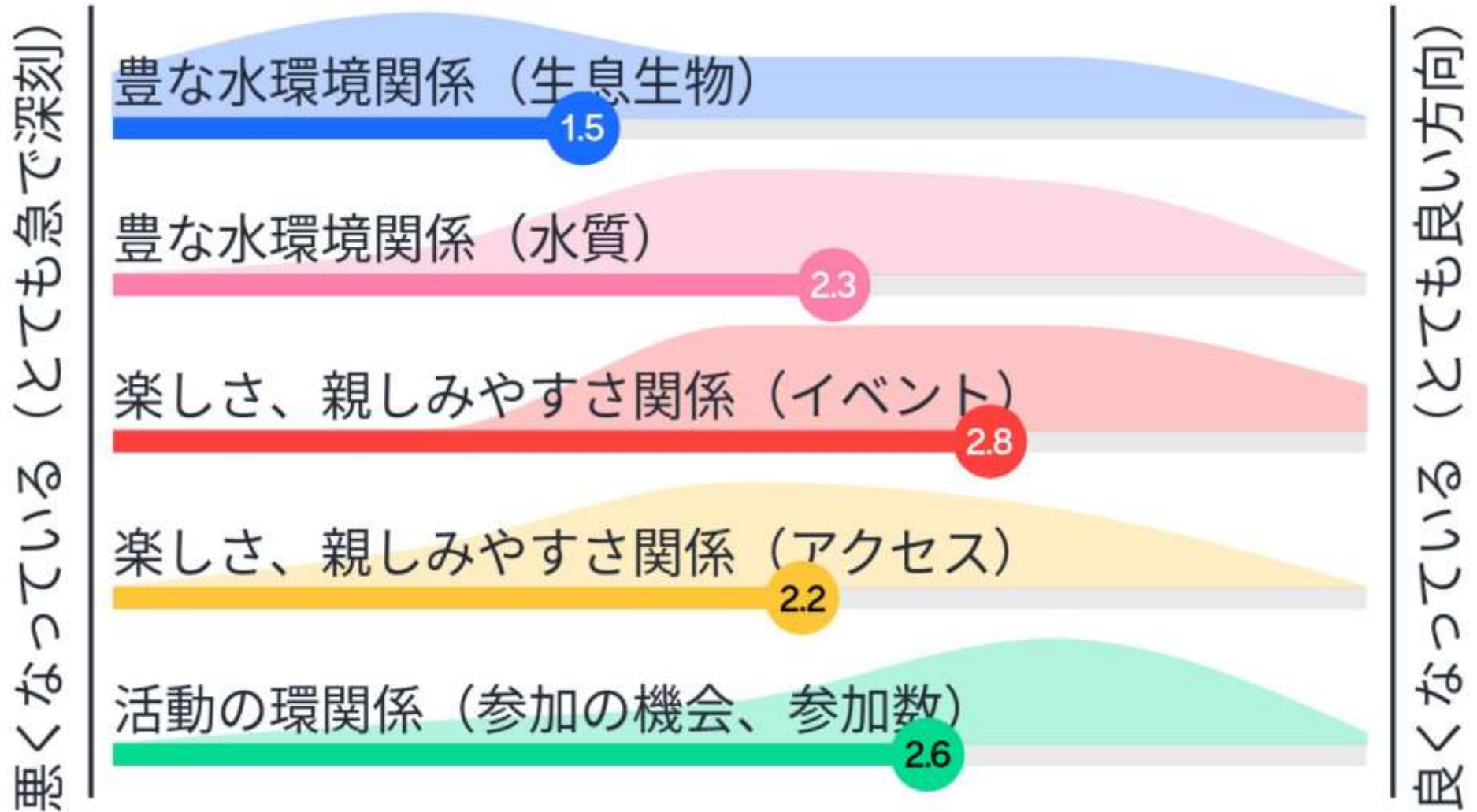
意見交換

- 参加者の属性



意見交換

- 東京湾の環境はここ10年でどのように変わっていますか？



意見交換

- 環境の評価についてご意見をどうぞ（評価の視点、活用など）

変化しているのは確かですが、良し悪しとなるとよくわかりません。

下水道関係の仕事をしています。最近の降雨の「集中化・激甚化」『気候変動による』により、合流式下水道からの汚濁負荷が東京湾に流入しているのではないかと気になっています。合流式下水道からの汚濁負荷が、紹介のあった底泥の汚濁として、東京湾の底に蓄積していったのではと愚考いたします。

浅場再生の定量的+経済的評価

市民にわかり易い指標、良いと思います。その指標で評価する際は、関連する専門的な指標項目でも確認しておくことが肝要だと思います。

アクセスしやすさは、海浜への立ち入りが可能な場所の駐車場台数の変化などもあるのではないのでしょうか。

気候変動や直接的な対策との関係を踏まえた対策を考えていけないか？と思います。

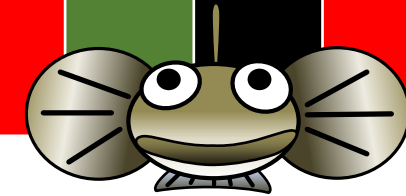
東京湾の環境変化の生態系に与える影響としては、東京湾全体の生物の多様性、現存量の長期変動（モニタリング）をしないことには流入負荷や環境変化に対する経年的な応答が評価できないと思います。

LIVEカメラでずっと写したりすればいいのにな？って思いました。

もっと多くの人々の生活活動の場として東京湾があると良い。

流入負荷が減っているのに、ここ数年の悪化傾向が心配です。なにか知らない変化があるのでしょうか？

生物の多様性が必要と言う事から、実際に「現時点」にて東京湾にて生育している生物の「水族館」的なもの。ビオトープ的なものを作成し、市民に公開できるようにしていけたら良いな、と思いました。



江戸前勉強会2022

6回シリーズ

おわりに／今後について

事前アンケート・参加予約

<https://jp.surveymonkey.com/r/JSGGH5P>



問い合わせ先 海辺つくり研究会・古川恵太

Email: keita@meic.jp TEL:045-321-8601

Webサイト

<https://coastcard.jp/江戸前勉強会/>

2022年 2023年
11月11日～1月20日
19:00～20:30 隔週金曜日
オンライン開催

参加無料

要予約

定員 Zoomでのご参加 先着100名
Youtubeでのご視聴（定員なし）

対象 東京湾の再生に興味のある方
行政関係者、研究者、市民、学生、
漁業関係者、企業など、どなたでも

6
1/20

「これからの東京湾再生に向けて」

みなと総研会議室・オンライン併用
公開討論会

ご参加の皆さんで記念写真

